

令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	東京都市大学	主な交流先	オーストラリア
事 業 名	アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム		
海 外 の 相 手 校	エディスコワン大学、デラサール大学、タマサート大学、マレーシア工科大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、オーストラリアのエディスコワン大学（ECU）とジョイントディグリー（JD）の新規構築を目指そうとする意欲的なプログラムである。海外相手校4校とは既に「アジア・大洋州5大学連合」を組織し、2大学を巡る短期留学プログラム、サマーキャンプ、ICT利用によるオンライン教育を企画し、タイのタマサート大学との間では博士課程のダブルディグリー（2022年4月学生募集開始）を開始している。中でもECUには毎年300名規模の学生を2015年から派遣している。このように密な交流を続けていることを背景に、同連携校とのJD新設の実現性は高く、また他3大学も含めた連携について、時差2時間以内を活用した「空間と時間を越えた国際キャンパス」と呼ぶ新しい可能性が示唆されている。多国多大学のオンライン教育の方法論でのベストプラクティス構築が期待される。

一方で、計画されているJDは「国際連携環境融合科学専攻」とされているが、環境とは人類を取り囲む全体であるから元来融合しているものとも言え、環境融合科学とは何かについて、定義を明確に示すべきである。その上でその科学分野の、教育における貴学の強みを訴求することが、グローバル展開力の強化に必要である。ISO14001を日本の大学で初めて認証を受けたとあるが、これを根拠に環境分野の教育上としての強みであるとする論理ではなく、教育内容を充実させることで名実相伴うものとしていただきたい。そのためには、JD構築に必要な不可欠な質保証制度を柱にした入念な制度構築と運営体制の強化、評価体制の確立と着実な運用が望まれる。以上のように専攻の定義を明確にし、その教育に関する貴学の強みをしっかり可視化し、それをよく表象するキーワードで国際的に訴求することによって、貴学の教育のグローバル展開力を、本事業によって強化いただくことを希望する。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。